

# 先週の回答



もぐもぐ。もぐもぐ。  
 「いいか、そしゃくしなくてはいかん」  
 「そしゃくって？ 何ですか」ぺちやぺちや。  
 「咀嚼、知らんのか。これだ」  
 もぐもぐ。  
 「よく噛むことだよ」  
 「何を？」  
 「何をつて、噛むつていったら食べ物だろー、ふつー」  
 「だったら噛むつて言えばいいじゃないの。そしゃくなんて気取ったことばじゃないで」ぺちやぺちや。  
 「気取ってるわけではない。丁寧に噛みくだいて味わうことを、正確に言う咀嚼と言う」もぐもぐ。

「それが？」  
 「何で咀嚼できるか考えたことがあるか？」もぐもぐ。もぐもぐ。  
 「歯があるからでしょう」ぺちやぺちや。  
 「ちがう。歯があるだけでは咀嚼は不可おまえのように」  
 「？」  
 「咀嚼できるのは、輔（ほ）（頬骨のこと）と車（しゃ）（歯茎のこと）が、互いに助け合つて食べ物を噛みくだくからだ。物を食べるために切り離すことができる、きわめて密接な関係にあることを輔車相依（ほしやあいよる）。あるいは唇齒輔車（しんしほしや）ともいう。もぐもぐ。もぐもぐ。わかつたか」  
 「ずいぶん、咀嚼にくわしいですね」

「もと男爵だったからだ。わしは」  
 「よく言うよ、男爵イモみたいな顔して」  
 「だれが！」  
 「すると、よく噛むのは頬骨と歯茎の連携プレーなんですね」  
 「そう、だから丸顔のお前はムリだ」  
 「どうして？」



